

長野県本部主催

## 2024年支部合同写真コンテスト

審査：全日本写真連盟関東本部委員 守屋喜彦（山梨県本部顧問）

### 総評

日頃から積極的に長野県内外の撮影チャンスを探して、活動する会員の皆さんの様子が作品を拝見する中から伝わって来ました。長野県内は広大で四季の自然風景も美しく、また年間を通じての伝統的行事も多いので、作品作りには事欠かないせいか、素晴らしい作品が沢山応募されておりました。

審査に当たっては、印象強く心に残り、撮影者の個性の感じられる作品を選ばせていただきました。

### 選評

(最優秀賞) 「ハプニング」 小林 芳夫 (東信支部)

長野県内には多くの獅子舞保存会があって、獅子舞フェスティバルも開催されておりますが、この作品は飯田市上村中郷の保存会の獅子舞の演舞の際の出来事を撮影した作品ですね。獅子と犬のにらめっこは、まさしく「ハプニング」です。作者にとっては、折よく素晴らしい撮影チャンスに恵まれる確なフレーミングで撮影できた秀作です。

(朝日新聞社賞) 「激突」 神戸 幸人 (長野支部)

新潟県小千谷市の闘牛場で開催されている闘牛「牛の角突き」の作品です。この作品は、「モノクロ作品」としてもまた「組写真」としても良く皆さん発表致しますが、「カラー作品」として、激突する牛の様子と、牛のオーナー達の泥にまみれての介添えの様子が、しっかり勇ましく表現できています。

(全日写連賞) 「跳ねる光の一瞬」 朝井 晴佳 (長野支部)

大迫力のシャチのパフォーマンスを巧みなフレーミングで、しっかり切り取ったダイナミックの作品です。鴨川の会場でしょうか、シャチが共演の女性トレーナーを跳ね上げた瞬間で、作品最下部の水飛沫は、やや露出オーバーですが、撮影の難しい被写体に良く挑戦されたと思われる素晴らしい作品です。

(1 ページ)

(優秀賞 1) 「道祖神の春」 川崎 克之 (安曇野支部)

残雪残る春の常念岳を背景に、二本の桜花樹が満開でその間に2基の道祖神を配した、そんな風景が手前の水面に写り込んで、これぞまさしく安曇野を象徴する優秀な作品に仕上がっております。

(優秀賞 2) 「北帰行準備」 中山 力 (東信支部)

雪も解けて渡り鳥の白鳥たちも「北帰行」だ、といった作品です。周辺の白鳥たちもカモたちもそれを見えています。フレーミング的にもしっかり撮影できており良い作品ですが、タイトルのには「準備」を外して「北帰行」でも良かったと思います。

(優秀賞 3) 「こざる相撲」 布施さやか (松本フォトクラブ支部)

長野地獄谷野猿公園の、母親猿の手前の可愛い子ザル達。2頭の子ザルはじゃれているのでしょうか？ 女性である作者は、「2頭の子猿の相撲」だと拝見してタイトル化しました。作品的には的確なフレーミングでよく撮影できております。

(2 ページ)